

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 旭区

学 校 名 大宮西小学校

学校長名 原 雅史

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大宮西小学校では、第6学年 43名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率は、全国平均と比べて、国語が6.8ポイント、算数が8.0ポイント、理科が6.1ポイント下回る結果となった。大阪市の平均と比べても国語が5.0ポイント、算数が8.0ポイント、理科が4.0ポイント下回った平均無解答率は、全国平均と比べて、国語が0.4ポイント、算数が3.0、理科が0.8ポイント高かった。児童質問紙の回答からは、国語科・算数科の授業で学習した内容を理解しているものの、自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表するなど、学習した内容を活用する経験が少ないことがうかがえる。また、タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用している割合は、大阪市の平均と比べて、12.8%上回っていることが分かる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】平均正答率全体を全国平均と比べると、6.8ポイント下回っている。【知識及び技能】6.0ポイント下回っている。【思考力・判断力・表現力等】は7.1ポイント下回っている。問題の形式が選択式の場合、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができています。しかし、記述式になると、情報を効果的に活用して考えたことを表現することに課題が見られる。

【算数】平均正答率全体を全国平均と比べると、8.0ポイント下回っている。【知識及び技能】は6.5ポイント下回っている。【思考力・判断力・表現力等】は9.2ポイント下回っている。四則計算などの基礎的な学力の定着を確認することができる。国語科同様、記述式の問題形式、特にデータ等を活用して自分の考えを表現することに課題が見られる。

【理科】平均正答率全体を全国平均と比べると、6.1ポイント下回っている。【知識及び技能】は2.9ポイント下回っている。【思考力・判断力・表現力等】は9.0ポイント下回っている。エネルギーを柱とする領域の平均正答率は、全国平均を上回っている。

質問調査より

肯定的な割合を大阪市平均との差で比較すると「算数の勉強は得意ですか」は4.8%上回っている。「タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」は12.9%上回っている。「国語の勉強は得意ですか」の肯定的な割合について大阪市平均との差で比較すると9.3%下回っている。授業で学習した内容の理解や英語学習意欲が総合的な学習の時間などに効果的に活用できていないこと、既習事項を活用する経験が少ないことが分かる。また、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」の最も肯定的な割合を全国平均との差で比較すると、0.1%上回っている。協働的な学びが広がっていることが分かる。

今後の取組(アクションプラン)

○基礎的な学力の二極化への対策をより充実させるため、「学力向上支援チーム事業」（学びコラボレーターや学びサポーター等による支援）の更なる効果的活用を図る。

⇒①問題の解き方を考えるだけでなく、解いていく道筋を工夫できるような授業中の個の支援。

②繰り返し学ぶ場の提供と個別の支援を目的とした、放課後学習会の通年設定。

○既習事項を理解し活用できる力を身に付けることができるよう、「学力向上支援チーム事業」（スクールアドバイザーによる支援）を活用した、日常的な授業改善を図る。

⇒①「考える力」「伝え合う力」を育み、主体的に書くことへとつなげる授業づくりの研究。

②スクールアドバイザーによる授業改善支援を活用した授業力の向上。

③複数の学力調査結果を分析・活用する教員研修の実施。

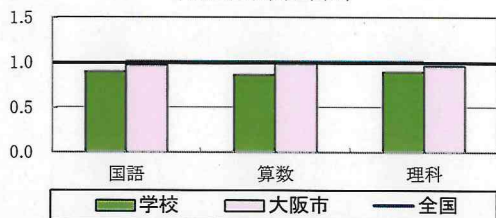
○全児童が自主学習の魅力に気づき、心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力を備えることめざして、個に応じた支援に努める。

【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	60	50	51
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

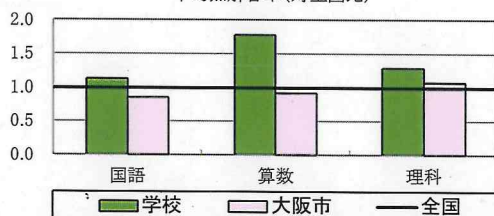
平均正答率(対全国比)



平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	3.7	6.4	3.6
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

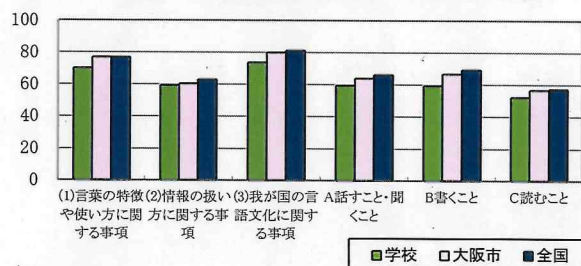
平均無解答率(対全国比)



【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使 い方に関する事項	2	70.2	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	59.5	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	73.8	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	59.5	64.0	66.3
B 書くこと	3	59.5	66.7	69.5
C 読むこと	4	52.4	56.9	57.5

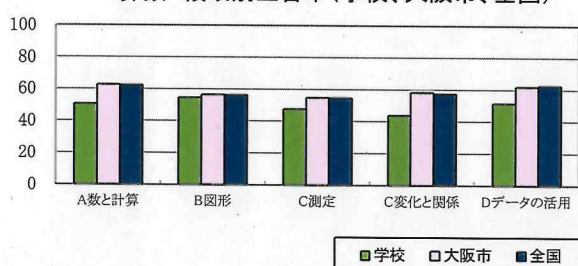
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



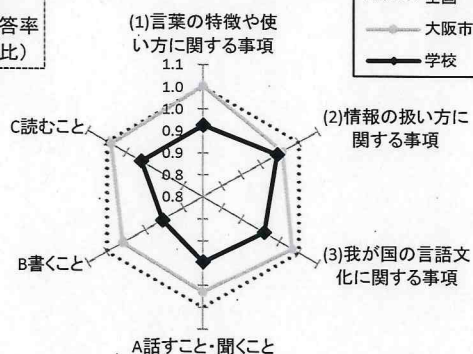
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	50.6	62.7	62.3
B 図形	4	54.8	56.4	56.2
C 測定	2	47.6	54.9	54.8
C 変化と関係	3	43.7	58.2	57.5
D データの活用	5	51.4	61.9	62.6

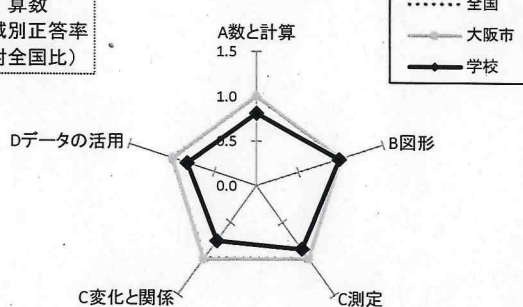
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 内容別正答率 (対全国比)

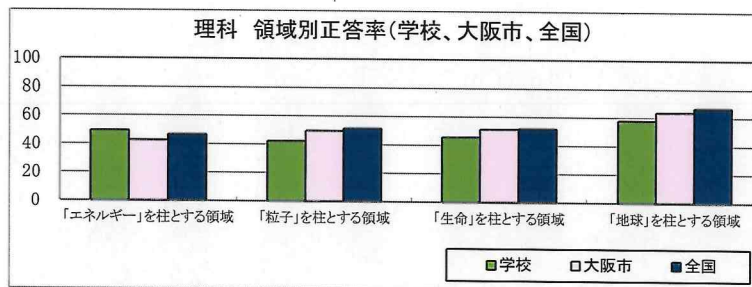


算数 領域別正答率 (対全国比)

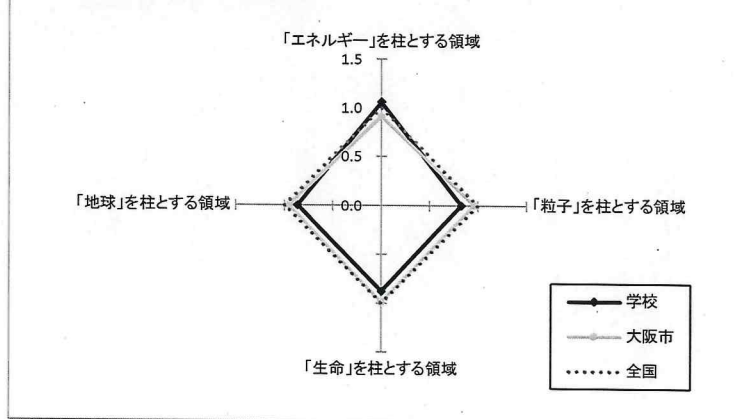


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	49.4	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	42.5	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	45.8	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	57.9	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

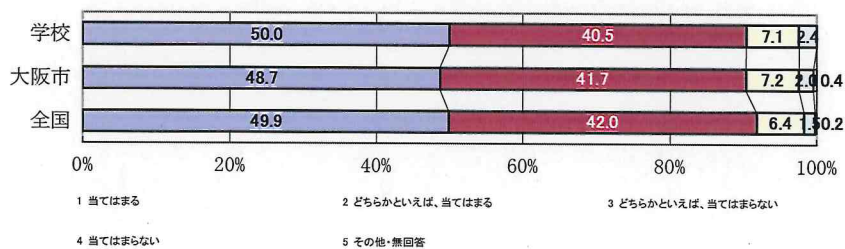
質問番号

質問事項

39

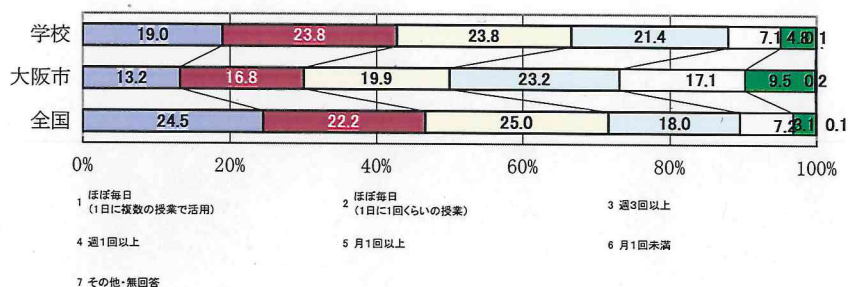
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8



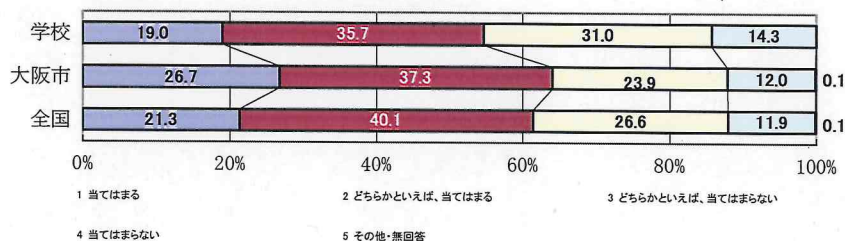
28

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



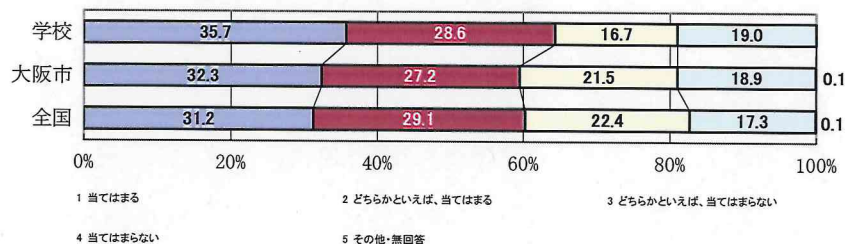
44

国語の勉強は得意ですか



52

算数の勉強は得意ですか



60

理科の勉強は得意ですか

